

再スタート—連絡会が「学習・シンポ」開催—

「保険で良い入れ歯を」運動

高齢社会を迎え「保険で良い入れ歯をつくりたい」と願う患者さんの願いにこたえようと、保団連も加盟する「保険で良い入れ歯を」全国連絡会は十一月二十一日、新宿・三省堂文化会館

で「学習・シンポジウム」を開催した。

者、婦人など六十三人が参加した。学習・シンポジウムは連

科技工士の実態と診療報酬「大澤文雄氏(歯科技工

歯科技工士は二重の困難に

で運動再開を確認したことから、今後、医療担当者と患者の共同した運動としていくために本日の学習・シンポジウムを開催したと開催の趣旨が紹介された。

また、学習・シンポジウムでは「患者から見た歯科医療」と題し、医療ジャーナリストの油井香代子氏が患者側から見た歯科医療の実態と問題点について講演を行った。その後のシンポジウムでは、「歯科診療報酬の矛盾と政府の医療政策」竹田正史氏(歯科医師)、「歯

討論では「歯科医療機関では本来、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士などが協力しあって質の高い医療



11月21日に開かれた学習・シンポジウムの模様

解説 国民要求にマッチした保険で良い入れ歯を運動

療の無料化など四点にわたる請願署名活動を推進しよ

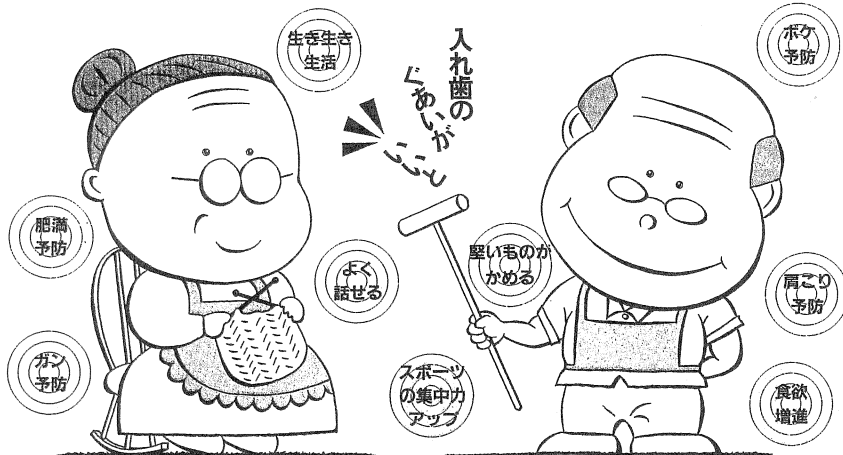
うとのアピールを採択し、シンポジウムを終えた。

請願事項

- 一、「保険で良い入れ歯」が入れられるよう、歯科医療従事者の技術を正当に評価し、保険のきく範囲を広げること。また、歯科技工士の独立した技術料評価をとおすこと。
- 二、医療保険制度の連続改善を止め、当面、健保本人および老人の自己負担を元にもとすこと。
- 三、乳幼児(六歳未満)の医療費を無料化すること。
- 四、乳幼児から高齢者までの一貫した歯科保健予防体制を確立すること。

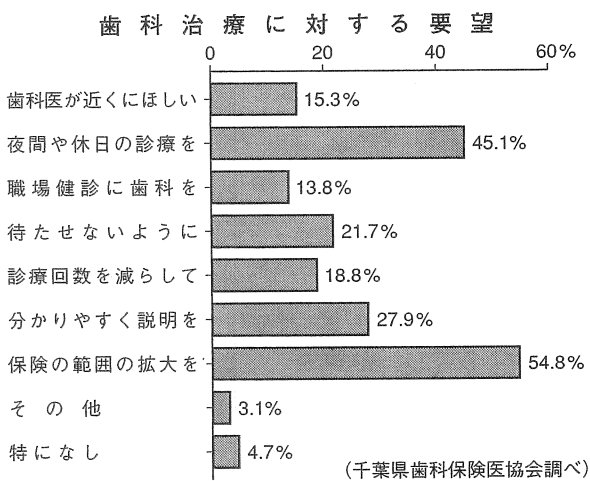
健康保険で良い入れ歯を

噛める、話せる、笑える—



「保険で良い入れ歯を」運動を呼びかけたポスター。

1992年以降、全国各地で保険で良い入れ歯を運動が広まった。特に全国3,305自治体(当時)のうち、半数に近い1,609(48.7%)の自治体が意見書を採択した。また、1994年の通常国会では、自治体の意見書を背景に、参議院での決議採択を目前に迎えた。しかし、自民党が直前に反対を表明、全会派一致を前提とするため、意見書採択は実現しなかった。



新たな請願署名活動を提起

最後に主催者を代表して鈴木中庸氏(全日本年金者組合)が、「保険で良い入れ歯」「保険で良い入れ歯」を実現するために、当面、歯科医療技術者の正当な評価と給付範囲の拡大、九月に、特に地方自治体での意

「保険で良い入れ歯を」全国連絡会は、一九九二年の春に放映されたNHKの番組をきっかけに始まった。この番組の中で、多くの高齢者が入れ歯で悩んでいること、その原因に低い保険点数があり、その中で歯科技工士が極めて困難な状態にあることなどが明らかにされた。

一九九二年秋に全国連絡会を結成し、シンポジウムや入れ歯相談などの取り組みを各地で進めるとともに、特に地方自治体での意

見書採択を重視し、多くの団体や政党の協力も得ながら、全自治体の半数に近い自治体での意見書採択を勝ち取り、こうした世論の盛り上がりや背景に、一九九四年の診療報酬改定では入れ歯の保険点数が40%近くと大幅に引き上げられた。

よってますます歯科医療の困難が深刻化した。こうした状況から、千葉、東京など各地の団体、個人から入れ歯運動の再開を求め、今年五月、今年五月連絡会は総会を行い、再び運動の再開を決定した。全国連絡会には、団体では保団連、全日本民医連、新日本婦人の会、全国年金者組合など、また、歯科技工士、歯科衛生士などをはじめとした個人が参加し、また、千葉、東京などでは県連絡会が活動している。